

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

実施課程名	大阪府立金岡高等学校 全日制の課程
取り組む課題	「生徒の学力の充実」「生徒の自立支援」
評価指標	① 「全国高等学校ビブリオバトル」等の大会連続代表出場と大会成績の向上、校内大会の定例化 ② 読書実態調査における「一カ月の読書冊数」の増加 ③ 教育産業の学力生活実態調査「平日の自宅学習時間（ラーニング・コモンズでの学習を含む）」の増加
計画名	主体的な学びの広場 「学習支援型図書室ラーニング・コモンズ」創設プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1. 【授業革命】で「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」を育成！（基礎学力の定着と向上）〈進路実現〉 (1) 生徒の主体的・能動的な学ぶ姿勢を引き出すことで「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」を育成し、「自己肯定感」を高め、「進路実現」を強力サポートする。 (3) 【骨太の日本語力養成プロジェクト】～生きる力の源泉「言葉のチカラ（言語技術）」を徹底マスター ア) 語彙力増強を意図し、図書室を学習支援型のラーニング・コモンズ」として、各種の情報や仕掛けを間断なく提供していく。
事業目標	【第3次大阪府子ども読書活動推進計画の一環として】利用者がほとんどいない学校のデッドスペースになっている本校図書室を、図書室コーディネーターなど専門家の協力のもと、生徒の主体的な学びのスペース「学習支援型図書室ラーニング・コモンズ」として蘇らせる。可動式のテーブルや椅子を組み合わせて、自由な発想で生徒各自のニーズに合わせた自主的な学習活動を可能にするスペースを創出する。 Teaching（教員が教えること）から Learning（生徒が主体的に学ぶこと）へ。グループでのディスカッションや仲間との教えあい・学びあいなど、会話をしながらの学習が可能なスペースとする。学ぶことの本来の楽しさを取り戻し、自ら積極的に学ぶ姿勢を身につけ、授業以外での勉強時間ゼロからの脱却をめざし、自学自習の習慣を身につけるサポートとしたい。また正規授業でも、アクティブ・ラーニングの実践チャレンジ道場として利用することができるスペースとする。紙媒体に限らず、無線 LAN を通じてタブレット端末で電子資料にも気軽にアクセス可能にする。
整備した 設備・物品	■ 学習支援型図書室「ラーニング・コモンズ」創設 ★ 可動式ワークテーブル&チェア×42 人分、タブレット端末×42 台、無線画像転送装置×3 台、プロジェクター 一体型ホワイトボード1台、教卓1台、無線 LAN アクセスポイント ★ 講師（図書館コーディネーター、作家など）の招聘
取組みの 主担・実施者	主 担： 教科横断的なラーニング・コモンズ運営プロジェクトチーム 取り組みの実施者： 100%の全教員が実施者となることをめざす

本年度の 取組内容	<p>全教科で授業での活用（４月～）、授業互見（随時）、クラブ活動でも作戦会議などで活用（４月～）、各地のラーニング・コモنزの先進事例視察や研究（随時）、授業アンケート、学校教育自己診断の実施と分析と情報共有（７月、１月）、３年間の評価と総括、次年度に向けた目標の設定（３月）</p>
成果の検証 方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 全国高等学校ビブリオバトル（５年連続）、中高生ビブリオバトル大阪大会（４年連続）出場と校内大会の月例化実現。 ② 読書実態調査における「一カ月の読書冊数」前年比 50%増加 ③ 教育産業の学力生活実態調査「平日の授業以外の学習時間」平均 30 分未満の学習者 20%→10%、「ほぼ毎日、自宅学習する」18.6%→80%
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 全国ビブリオバトル（「ビブリオバトル関西大会」に名称変更）５年連続、中高生ビブリオバトル大阪大会４年連続出場について達成できた。……………（○） 校内大会は年５回実施した。学校行事や定期考査の関係で毎月実施は実現できなかった。……………（△） ② 読書量 2.8 冊→2.5 冊。ビブリオバトルを通して読書量の増加を図ったがうまくいかなかった。……………（△） ③ 学習時間 30 分未満が 52.2%に増加。「ほぼ毎日、自宅学習する」21.3%……………（△）
事業のまとめ	<p>ビブリオバトルは校内に定着しつつあるが、行事や考査の関係で当初目標に掲げた毎月実施は難しく年５回実施程度が適正であると考えている。今後参加者を増加させるために総合的な探究（学習）の時間内での取組みを検討していきたい。読書の面白さを実感させることにより自ずと読書量は上がっていくものと判断している。</p> <p>学習スペースとして図書館・自習室を確保しているが、家庭で毎日勉強する生徒は少ない。一方で進路実績や受験産業の学力実態調査では本校生徒の力はこの３年で着実に伸びている。（Bゾーン以上の生徒の割合は30%程度だったが42.5%に増加した）。図書館のiPadの活用（週6時間程度）や教室でのプロジェクター活用による授業改善によって成果が上がってきていると考えている。図書館を学びのスペースとして活用することができるようになってきたので、今後は学んだことを発信するスペースとして図書館をより活用していきたい。</p>